



(參事官會議議案第百九號)

谷津(松平次官發)

佐竹法制局長官宛

松平次官發

關東州匪徒刑罰令制定ニ關スル件

本件ニ關シ本年二月四日附亞三機密第二二號拙信ヲ以テ不取敢申進
置ノ次第有之候處關係領事ノ意見ヲモ參酌シ當方ノ所見左記ノ通開
陳候條御査閱相成度此段申進候也

記

(參事官會議意見)

關東州内ニ於ケル匪徒ノ横行竝ニ之カ防壓難ノ實況ニ顧ミ慎重審議
ノ結果本令ヲ制定セントスルニ至リタル事情ハ深ク之ヲ諒トスルモ
雖テ本令ノ内容ヲ見ルニ右ハ全ク文化ノ程度極メテ低キ蕃地若クハ
之ニ準スヘキ地方ニ適用スヘキ立法ニシテ果シテ之ヲ滿洲若クハ關

東州ノ如キ地方ニ之ヲ施行スルノ穩當ナリヤ否ヤ甚タ疑ハシキノミ
ナラス本令ニヨリ刑罰ヲ受クヘキ者ハ事實上支那人ニ限ラレ而モ國
体的ニ之ヲ罰シ且ツ之カ刑罰ノ種類ニ至リテハ死刑ヲ以テ唯一ノ科
刑トシ剩ヘ之カ未遂罪ニ對シテモ同様ノ刑罰ヲ科シ得ヘシト爲
スカ如キハ餘リニ苛酷ニ失スルノ感ヲ與フ可ク尙又本法ハ其名稱ト
内容トニ照シ直チニ支那側ノ懲治盜匪法ヲ連想セシムル處支那ノ實
際ニ於テハ同法カ軍閥又ハ行政官廳ノ惡用スル所ト成リ司法權ノ獨
立ヲ害スルモノトシテ同國司法界ハ勿論一般官民並ニ外國人ヨリ非
議セラレ中央政府ニ於テモ之カ廢止ニ努力シ居ル趣ナルカ固ヨリ今
同ノ匪徒懲罰令ハ我司法官憲ヲ規律スルモノニシテ前顯支那盜匪法
ノ如ク正式裁判ニ據ラスシテ極刑ヲ科スルモノニ比シテ全然其趣ヲ

異ニスルハ勿論ナリト雖支那人スラ如上ノ見解ヲ持スル今日帝國政
府カ峻嚴ナル懲罰令ヲ制定スルコト時勢ニ逆行スルノ^議議ナキカヲ虞
ル殊ニ最近奉天省側カ關東州法權ノ回收ヲ提議シ來レルカ如キ時機
ニ於テ本令ノ制定セントスルハ一層慎重ナル考量ヲ加フルノ必要ア
リ更ニ翻ツテ我國ノ一般對支政策上ヨリ見ルモ日支ノ關係ニ付キ極
メテ細心ノ注意ヲ要スル此際本令ノ如キ刑罰規定ヲ公布スルニ於テ
ハ必スヤ支那側ニ對シ更ニ新ナル論議ノ材料ヲ供シ延イテハ一部歐
米人ニ利用セララルル無キヲ保セス旁々當方ノ立場上本案ハ原案ノ儘
ニテハ乍遺憾之レニ同意シ難ク寧ロ此際關係州當該地方ノ警備ヲ一
層嚴ニスルト共ニ支那側ト協調シテ警備ノ實ヲ舉ケ以テ匪徒ノ被害
ヲ未然ニ防スル一方若シ現行法上認ムル最高刑罰ノミニテハ充分之

カ目的ヲ達シ得サルニ於テハ可成目立タサル方法ヲ以テ現行刑法中
ニ必要ナル規定ヲ追加スル等ノ可然方法ニ依リ本令所期ノ目的ヲ達
スルノ措置ヲ講セラルルコト得策ナルヘシト思考ス



(參事官會議議案第九號)
 佐竹法制局長官宛 松平次官發 谷參事官提案
 關東州匪徒刑罰令制定ニ關スル件

本件ニ關シ本年二月四日附亞三機密第二二號拙信ヲ以テ不取敢申進
 留ノ次第有之候處關係領事ノ意見ヲモ參酌シ當方ノ所見左記ノ通開
 陳候條御査閣相成度此段申進候也

記

本件關東州内ニ於ケル匪徒剿滅ノ目的ヲ以テ從來ヨリモ峻酷ナル法
 令ヲ制定セムトスルコトハ法理上何等支障ナキ所ナルト共ニ個人ノ
 生命財産ヲ侵迫奪取スルコトヲ常習トスル徒輩ヲ社會團體生活ヨリ
 芟除セムトスルハ内外共ニ之ヲ希望スル所ナルヘキハ勿論ナリ殊ニ
 客年隨城事件以來之等匪賊ノ討伐ニ關シ歐米人ノ輿論カ一律強壓手

段ヲ提唱シ居ルハ周知ノ事實ナルノミナラス從來支那側ニ於ケル刑
 罰亦極刑ヲ以テ之ヲ處斷シ居ルニ鑑レハ本勅令案ノ精神内容共ニ機
 宜ノ措置ト稱シ得ヘキカ如シ然ルニ翻テ本令實施ノ曉ニ於ケル各般
 ノ影響ヲ看ルニ(一)支那官民一般時代思潮ニ乘シテ其固有權利ノ恢復
 ニ熱中シ機會アル毎ニ帝國ニ對スル抗議ヲ連發シ又ハ歐米輿論ニ訴
 ヘツツアル今日假令暴虐殘忍ナル匪徒ノ剿滅ヲ目的トストハ云ヘ支
 那人ヲ當ノ對象トスル刑罰令ニ於テ殆ト死刑ヲ唯一ノ科刑トスルカ
 如キハ支那側ニ論議ノ材料ヲ供シ延イテハ一部歐米人ニ利用セラル
 ルコト無キヲ保セス(二)支那側懲治盜法ニ付テハ由來同國法曹界ニ鬼
 角ノ批難アルノミナラス關係司法官ノ言ニヨレハ同法及其施行法ハ
 既ニ其期限ヲ經過シ本年一ケ年ヲ以テ撤廢セラルヘキ運命ニ在ル由

ナレハ繼令該法カ全然廢止セラレサルニセヨ支那當局スラ如上ノ見
解ヲ持スル今日帝國政府カ峻嚴ナル懲罰令ヲ制定スルコト時勢ニ逆
行スルノ議ヲ招致スルナキヤテ虞ル(三)殊ニ最近奉天省側カ關東州法
權回收ヲ提起シ來レルカ如キ時機ニ於テ本令ヲ制定セントスルハ時
節柄一層考量ヲ加フルノ要アルヘシ

以上本案ノ得失ヲ比較考料スルニ右ハ此際寧ロ其制定ヲ見合セ之ニ
代フルニ當該地方警備ヲ嚴ニスルト共ニ支那側ト協調シテ警備ノ實
ヲ擧ケ以テ匪徒ノ被害ヲ未然ニ防壓シ其縛ニ就キタル者ハ現行刑法
ノ範圍ニ於テ可及的重刑ヲ科シ以テ彼等ヲ一般會社ヨリ永ク隔離ス
ルノ方途ニ出テムカ租借地内一般事物ノ進歩ト交通機關ノ發達トニ
侶ヒ其數亦漸減スヘク旁々以テ本案所期ノ效果ヲ得ルニ庶幾ラムト
思考セラレ

拓秘第六號

大正十三年一月二十三日

拓殖事務局長 別府 續太郎

外務次官 松平 恒雄 殿

關東州匪徒刑罰令制定ニ關スル件

關東州貔子窩地方ニ出沒スル匪賊ハ最近ニ於テ甚タシク惡化シ暴行
脅迫又ハ人質ヲ拉去スル等其ノ行動兇暴ヲ極メ財物ノ掠奪被害ハ最
近一ケ年ニ於テ實ニ巨萬ニ達シ地方民心ノ動搖甚シク治安上害ニ深
憂ニ堪ヘサルノミナラス延テ産業ノ發達ニ至大ノ影響アルヲ以テ所
轄警察官署ノ警備ヲ嚴ニシ根本的剿滅ヲ期シツツアルモ地域廣潤ニ

6-0075

0400

シテ其ノ出沒ヲ絶無ナラシムルハ眞ニ至難ノ業タリ而シテ之等匪徒ニ對スル制裁ハ普通刑法ヲ以テ之ニ臨ムモ其ノ刑輕ク彼等ヲ威嚇スルニ寸效ナキノミナラス支那官憲ノ如ク匪賊ヲ逮捕スルヤ直ニ銃殺シ又ハ斬殺スルノ嚴刑ニ對比シ益々吾官憲ヲ輕ンシ關東州内ヲ横行スルノ結果ヲ招來セルモノナルヲ以テ之ニ嚴刑ヲ科スヘキ制裁法ヲ定メ併セテ關東州内住民中匪賊ニ内通シ又ハ醫匿スル者ヲ處罰シ管内ニ匪賊ノ潛伏ヲ不能ナラシメ以テ匪害ノ豫防ト匪賊ノ絶滅ヲ期セントスル爲別紙ノ勅令ノ制定方目下法制局ニ於テ審議中ニ有之候條御意見有之候ハ、直接法制局ニ御申出相成度勅令案添付此段及照會候也

名
考

勅令第 號

關東州匪徒刑罰令

根本 根本 根本 根本

第一條 強盜ノ目的ヲ以テ多衆結合スルヲ匪徒ノ罪ト爲シ死刑ニ處ス但シ附和隨從シ又ハ雜役ニ服シタル者ハ一年以上ノ懲役ニ處ス

第二條 前條但書ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ死刑ニ處ス

一 公務員又ハ軍隊ニ抵抗シタルトキ

二 建造物、汽車、電車、艦船、鑛坑、橋梁其ノ他ノ物件ヲ燒燬シ又ハ損壞シタルトキ

三 鐵道、鐵道標識、燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ汽車、電車又ハ艦船ノ往來ニ危険ヲ生セシメタルトキ

6-0075

四 郵便、電信若ハ電話ノ用ニ供スル物件ヲ毀損シ及其ノ他ノ方法ヲ以テ通信若ハ交通ヲ妨害シタルトキ

五 人ヲ殺傷シ又ハ婦女ヲ強姦シタルトキ

六 人ヲ略取シ又ハ財物ヲ強取シタルトキ

第三條 前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四條 兵器彈藥、船隻、金銀其ノ他ノ物件ヲ供給シ若ハ會合ノ場所ヲ供與シ又ハ其ノ他ノ行爲ヲ以テ匪徒ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若ハ一年以上ノ懲役ニ處ス匪徒ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者亦同シ

第五條 前各條ニ該ル罪ヲ犯シタル者ノ占有スル物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキハ之ヲ沒收スルコトヲ得

第六條 本令ノ罪ヲ犯シタル者官ニ自首シタルトキハ情狀ニ依リ其ノ罪ヲ減輕又ハ免除ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

6-0075

0402



關東州匪徒刑罰令制定ノ可否ニ關スル
關係領事官ノ意見摘要

(大正十三年五月調)

(甲) 鐵嶺領事

(一) 懲治盜匪法(民國三年法律第十七號)實施狀態ニ關シ取調タル
結果如左

(a) 縣知事ハ犯罪ノ狀況ヲ詳細精察、總辦、省長、道尹、全省警
務處長、高等檢察廳長及保甲總辦ニ報告シ何レモ異議ナキ場
合知事ニ於テ犯人ヲ死刑ニ處ス

(b) 同法第七條ニヨリ軍械側ノ施行スル死刑ハ軍法會議ニ附シ又
ハ師旅團長ノ審判ノミニヨリ之ヲ行フ

(二) 實施期間五年經過後同法カ延長セラレタルヤハ不明

(三) 同法ニアル死刑ハ正式裁判ニ依ラサルモノナルヲ以テ由來曹
界ニ批難アリ

(四) 新令ハ科刑ニ關シ支那側ト均衡ヲ保タシムル爲ナルヘシ

(五) 新令施行ノ曉匪徒カ州内ヲ去リ隣接各省ニ潛入スルコト無カ
ルヘシ、若シ之アラハ彼我警察取締ノ如何ニ歸ス

內滿鐵附屬地内ニテハ我刑法ヲ適用セス犯人ヲ支那ニ引渡スヲ
例トシ又日本人ニシテ馬賊的行爲ヲナス者稀有ナル故新令ハ
隣接地域ニ對シ格別ノ影響ナカルヘシ



(乙) 遼陽領事

(一) 懲治盜匪法ニヨリ所刑ヲ課セラルヘキ者ハ第四條列記ノ者ノミ
ニテ強盜三人以上結合シタル場合ト雖必スシモ死刑ニ處セス、
然ルニ新令ハ之ヨリモ苛酷ナリ(支那ニハ強盜豫備ヲ罰スル規
定ナシ)故ニ不穩當ノ議ヲ免レサルヘシ

(二) 新令第一條ハ明瞭ヲ缺ク

(三) 關東州内ニモ支那ト同一歩調ノ刑罰法令ヲ必要トスヘシ

(四) 遼陽縣知事ハ右(三)ノ必要ヲ認メ居レリ

(五) 新令實施ノ結果州外地方ノ被害激増スヘシトハ惟ハレス但シ匪
賊ノ潛入移動多少ハ有ルヘシ此場合領事官ハ支那官憲ト協力剿
滅ヲ圖ルヘシ

(丙) 牛莊領事代理

(一) 從來匪徒引取ノ爲來館シタル支那官憲ハ何レモ我方モ支那側ト
同様懲罰ヲ以テ匪徒ニ望マンコトヲ希望シ居タル趣ナリ

(二) 從來州外ノ匪徒州内ニテ逮捕サレタル場合我方カ生命刑ヲ課セ
サルヲ知ルカ故ニ支那側ヘ不引渡ヲ歎願シタルハ我方科刑ノ輕
キニ失シタル結果ナリ

(三) 支那官民共ニ新令ニ反對セサルヘシ

(四) 歐米人モ之ヲ排日煽動ノ具ニハ供セサルヘシ

(五) 新令ハ匪徒補助行爲ヲモ極刑ニ處ス(第四條)ルカ故ニ州内在

住支那人ニシテ匪賊ノ手引ヲナスモノ減シ匪徒活動不便トナル
ヘク旁々當管内ニ匪賊ノ跳梁ヲ來スヘシ

(六)新令施行ノ曉ハ管内殊ニ接壤地方ノ我民力補充又ハ警察官増員
ヲ考慮スヘシ

(七)死刑廢止論スラ有ル今日新令ニ付議論ノ餘地アルヘキモ支那ノ
文化國情及匪徒ノ性質ヨリ見テ不可ナシト思考ス

(丁)奉天總領事

(一)懲治匪徒法ハ滿期後大統領令ヲ以テ實施延期セラレ本年一ケ年
ヲ以テ撤銷セラルコトト成リ居レル趣

(二)又元關東都督府時代ニハ此種刑罰令アリタルモ餘リニ慘酷ナリ
トノ理由ヲ以テ之ヲ撤廢シタル趣ナリ

(三)果シテ然ラハ今日新令ヲ制定シ支那側撤銷ノ際再ビ之ニ倣フカ
如キハ餘リニ朝令暮改ナリ

(四)之カ爲州内匪徒數減スヘシトハ惟ハレズ
(五)邦人ニモ之ヲ適用スルハ時代錯誤ナリ

(六)匪徒逮捕ノ曉物的證據ヲ舉クルコト困難ノ由ニテ從テ認定ノミ
ニヨリ處罰ヲ決スルコト日本ノ如ク司法機關完備ノ國ニ於テ之

テ斷行シ得ルヤ

(七)支那人個人ハ之ヲ歡迎スヘキモ州内支那法權ノ回收ヲ提起シ來
シル如キ時機ニ於テ特ニ支那人ノミヲ目標トシ又支那現行法ヨ
リモ苛酷ナル新令ヲ施行スルハ其時機ニ非ス

(八)寧口州内警備力ヲ増大スルト共ニ支那地方官憲トモ連絡ヲ計ル
外ナカルヘシ

(九)附屬地内ニ對シテハ新令ニ順應スル如キ辦法ヲ講スルコト恐ラ
ク不可能ナリ

(戊) 間島總領事

(一)二十世紀ノ今日餘リ類例ナキ峻酷ナル法制ナルモ馬賊亦世界ニ
類例少ナキモノナレハ新令ハ已ムヲ得サルヘシ

(二)支那側ハ別段ノ感想アルマシ

(三)不逞鮮人橫行地方ヘモ相當ノ刑罰令制定ノ要アルヘシ

(巳) 安東領事

- (一) 匪賊カ刑罰法令ノ寬嚴ニヨリ其行動ヲ二三スルトハ信シ難シ
- (二) 關東州租借以來二十年各般ノ制度漸ク完備セル今日軍政當時ノ舊制ニ逆轉スルハ時代思潮ニ逆行スルノ謗ヲ免レス
- (三) 支那側ニ於ケル關東州内利權回收熱盛ニシテ鐵道附屬地警察權ノ回復ヲモ云爲セムトスル現下ノ情勢ニ鑑ミレハ新令ハ排日又ハ國權擁護運動ニ氣勢ヲ添フヘシ
- (四) 英國ハ最近關東州内ニ於ケル完全ナル帝國司法權ヲ排シ自國ノ領事裁判權ヲ認ムルカ如キ判決ヲ下シタル事例ニ鑑ルモ臺灣領事官ニ對シテ是ノ範圍ニ倣ハムトスルハ慎重考慮ヲ要ス
- (五) 大正十年五月長白縣ニテ逮捕シタル百五十餘名ノ匪徒ヲ支那側ニ引渡シ支那官憲カ彼等ヲ銃殺シタル當時邦人ニ對スル感情甚々面白カラサリシ事實ハ省慮ニ値スヘシ
- (六) 州内ノ匪徒數今ヤ多カラス地方開發ニ伴ヒ逐年奧地ニ其影ヲ潛ムヘク地域モ狹少ナルコトトテ我方警備ノ充實ニヨリ其危害ヲ防壓スルコト不能ナラサルヘシ
- (七) 新令實施ノ曉州内匪徒ハ州外へ出沒横行スヘク之ニ對シテハ警備機關ノ増設充實ニヨリ自衛的措置及支那側トノ連絡督勵ノ外策ナカルヘシ

(庚) 長春領事

(一) 支那官民一般ハ盜匪法ヲ以テ當然ノ規定ト有儀モ居レリ

(二) 同法ハ期間満了後大總裁令ヲ以テ二回延期セラレ尙二ケ年ノ實施

期間ヲ有スル由而シテ今後二ケ年ニシテ廢止セラルルヤ疑アリ

(三) 我方ニ於テ同法ト同一程度ノ刑罰令ヲ制定スルコト專口當ヲ得タ

リ

(四) 外人モ何等反對セサルヘシ

(五) 新令第一條ハ強盜ノ準備行為ヲモ罰スルモノト解セハ右ハ其規定

要ニ欠ス

(六) 從米穀道沿線警備機關手薄ノ憾アリタルニ由リ本令實施ノ機會ヲ

以テ州外隣接地方ヲ始メ附屬地全般ニ對シ之カ充實ヲ實現スルヲ

要ス

秘

五月三日

參事官室

明後五日(月曜)午前十時半ヨリ第一會議室ニ於テ臨時參事官會議

開議致可候條御參集相成度此段及御通知候也

議題 關東州匪徒刑罰令制定ニ關スル件

(議案第百九號 谷參事官提案)

6-0075

0408



第四百十七回參事官會議々事要録

大正十三年五月五日（月曜）午前十一時開議午後十二時半散會

出席、澤田、岡部、齋藤、堀田、北田、加藤、谷各議員

高尾秘書官、坪上書記官

缺席、川島、矢田部、山崎、重光、三宅各議員

議題 關東州匪徒刑罰令制定ニ關スル件

議案第九號 谷參事官提案

議長辭意ニ付キ辯論議員議長辭ニ就キ開議ヲ旨シ
 議案第九號關東州匪徒刑罰令制定ニ關スル件ノ審議ニ入り坪上書
 記官ヨリ本案所稱ノ反對澤田及真野等ニ付キ觀ニ布衍シテ説明スル
 所アリ高尾秘書官ヨリモ實際ノ事是ニ基キ詳細ノ意見開陳アリ澤田
 書記官モム令ノ案文ニハ反對ナルモ懸念ナル方法ヲ以テスル制裁ニ
 ハ同意スルヲ要スヘシト述ヘ其但各員互ニ意見ノ交換ヲ行ヒタル後
 衆議院州内ニ於ケル議決ノ進行力カ防礙疑ノ實況ニ顧ミテ令ヲ制
 定セントスルニ至リタル事情ハ深ク諒トスル次第ナルモ議決令ノ
 内容ヲ見ル時ハ右ハ至ク文化ノ程度低メテ此キ審議若クハ之ニ至ス
 ヘキ地方ニ對シ濫用スヘキ立法ニシテ採シテ滿洲若クハ關東州ノ如
 キ地方ニ之ヲ施行スルハ穩當ト云フ可キヤ否ヤ甚ダ懸ハシキノミナ

ラス刑罰ヲ受クヘキ相手方ハ事實ニ於テ辱ラ支那人ノミニ限ラレ而
モ國籍的ニ之ヲ罰スルモノニシテ之カ刑罰ノ種類ニ至リテモ總刑ヲ
以テ唯一ノ科刑トシ未嘗ニ對シテモ亦同様ノ罪刑ヲ科シ得ト爲ス
カ知キハ條ニ寄帶ニ矢スルノ處ヲ與フヘク尙又本法ハ其名條ト内容
トニ照シ則チニ支那領ノ憲治盜匪法ヲ延想セシムルノ處アリ而シテ
支那ニ於ケル同法カ實際ニ於テ支那ノ事關及官憲ノ應用スル所トナ
リ彼等ハ自己ノ反對派ヲ抑壓シ良民ノ權利自由ヲ剝奪スルノ具ニ供
シ併リ司法權・獨立ヲ廢ルモノトシテ我國司法界ハ勿論一般官民並
ニ在支外國人ヨリ權利ナル憲法ノ例トシテ法律體セラレ同國中央政府
ニ於テモ之カ廢止ニ努力シ居ル次第ニシテ固ヨリ今尙ノ關東州匪徒
刑罰令ハ我司法官憲ヲ規率スルモノニシテ支那ノ憲治盜匪法トハ此

點ニ於テ全然其趣ヲ異ニスルハ云フ迄モナ^イコトナルモ一般支那人
ニ至リテハ或ハ全然本令ヲ以テ支那ノ憲治盜匪法ト比較スルナキヲ
保セス條ニ身近奉天省領カ關東州法權ノ回收ヲ擬議シ來レルカ如キ
時機ニ於テ本令ノ制定ハ一層慎重ナル考慮ヲ加フルノ必要アリ然ニ
尙テ我國ノ一般對支政策上ヨリ見ルモ日支關係ニ付キ益メテ細心ノ
注意ヲ要スル此際本令ノ如キ刑罰規定ヲ公布スルニ於テハ必スヤ支
那領ニ對シテニ新ナル論議ノ機ヲ供シ延テハ一部歐米人ニ利用セラ
ルルニ至ルヘク尙^ク我方ノ立場上本對^ハ原案ノ趣ニテハ同意シ難^ク
此際益々富強地方ノ警備ヲ嚴ニシ若シ被^ハ捕縛者ニ對シ現行法認ムル
最高刑罰ニテハ充分防衛防壓ノ目的ヲ達シ得サルニ於テハ可成自立
タサル方法ヲ以テ現行刑法中ニ必要ナル規定ヲ追加スル等ノ方法ニ



依り大體ニ於テ本令所期ノ目的ヲ達スル措置ヲ講スルヲ可ナリトシ
右ノ趣旨ニヨリ佐竹法副局長官ニ對スル意見書作成ノ事ニ決シ散會

6-0075

2411